



成功するための Linux 環境管理

効果的なシステム管理のための先進的なベストプラクティス、
ツール、テクニックに関するガイド

目次

1

Linux は将来への基盤

2

システムのライフサイクル
管理を効率化

3

専門的なツールによる Linux
管理の一元化

4

ユースケースにベストプラク
ティスとツールを導入



カスタムイメージによるイン
フラストラクチャのプロビ
ジョニング

構成の管理と更新

ライフサイクル全体を通じた
システム保守

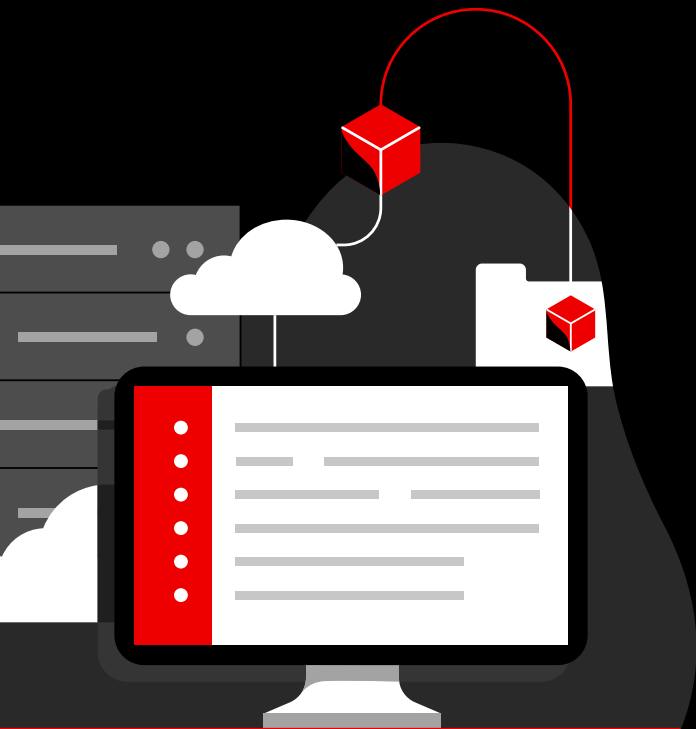
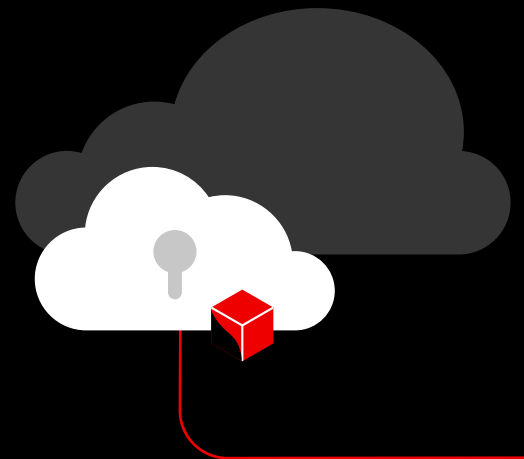
オペレーティングシステムの
アップグレード

5

成功事例を見る：
英国気象庁

6

成功するための管理を
始めましょう



Linux は 将来への基盤



Linux® は、先進的で革新的な IT にとって理想的なプラットフォームを提供します。オンサイト・データセンターやパブリッククラウド環境において、可用性、信頼性、重要性の高いワークロード向けによく使用されており、さまざまなユースケース、ターゲットシステム、デバイスをサポートしています。

先進的な Linux 環境は、世界各地に散在している複数の組織が運用する大規模にデプロイされたインフラストラクチャを含むことが多く、高度な管理ツールとアプローチが不可欠です。多くのチームにとって、これらのシステムのプロビジョニング、構成、保守、アップグレードを手動で行うのは大変な作業です。また、オンサイト・インフラストラクチャ、パブリッククラウドリソース、エッジデバイスを含むハイブリッドクラウド環境全体でワークロードをデプロイする組織も増加しています。インフラストラクチャとワークロードが分散して複雑さが増すと、運用の可視性が損なわれ、管理上の課題が複雑になる可能性があります。

包括的な管理戦略を導入すると、アセットとビジネスを保護するとともに、Linux 環境を最大限に活用することができます。一貫性のあるオペレーティングシステムとツールセットに基づく**標準運用環境 (SOE)** は、効果的な管理戦略の中核になるものです。SOE は、IT インフラストラクチャを単純化して、効率性の向上、コストの削減、アップタイムの増加、デプロイメントとプロビジョニングにかかる時間の短縮、セキュリティと生産性の向上を実現します。

この e ブックでは、先進的なベストプラクティスと自動化ツールを使用したハイブリッドクラウド環境管理の効率化について、Linux 管理者とアーキテクト向けのエキスパートによるガイダンスを提供します。

エンタープライズ向け Linux のビジネス価値

エンタープライズ向け Linux ディストリビューションは、先進的なデジタル・ビジネス・イニシアチブを持続するために次のものを提供しています。

- ▶ オープンソース・イノベーション
- ▶ インフラストラクチャ全体の一貫性
- ▶ コンテナとアプリケーションの可搬性
- ▶ 大規模なワークロードとプラットフォームのスケラビリティ
- ▶ 継続的なセキュリティ機能
- ▶ アプリケーション開発のための柔軟なプラットフォーム

エンタープライズ向け Linux ディストリビューションの**メリット**をご覧ください。

システムのライフサイクル管理

あらゆるシステム、リソース、ワークロードにはライフサイクルがあります。システムのライフサイクル管理によって、システムのプロビジョニング、構成、保守、アップグレードを効果的に行い、ビジネス運営とビジネス目標をサポートすることができます。理想的なライフサイクル管理のアプローチにより、次のことが可能になります。



プロビジョニング

自動化され、信頼性が高く、スケーラブルな方法でシステムを作成し、デプロイします。



構成

実証済みのガイドラインとベストプラクティスに従ってシステムをセットアップします。



保守

システム構成のライフサイクルを通じて一貫性が保たれるようにします。



アップグレード

システムをモダライズして、セキュリティ、機能、またはパフォーマンスを向上させます。

ライフサイクル管理の一般的な課題

一部の状況では、システムの効果的な管理が困難になる場合があります。

- ▶ **環境の無秩序な広がり：** 大規模な環境には多数のシステムが含まれ、組織全体のシステムの状態とイベント追跡が複雑になります。
- ▶ **技術的負債：** 従来のシステムを管理するためには、多くの場合、特別なツールとプロセスが必要であり、それがすべてのシステムを単一のツールおよびプロセスを使用して管理する取り組みを妨げています。
- ▶ **限られたスタッフ：** IT チームは、彼らが管理するインフラストラクチャの成長のペースに合わせて増員されるわけではないため、技術的変化、イノベーション、ビジネスニーズに先んじて対応することが困難になっています。
- ▶ **ビジネス継続性要件：** システム管理は、重要なビジネスの運用を妨げない方法で行う必要があります。

ライフサイクル管理のベストプラクティス

以下のベストプラクティスを導入すると、チームの時間と労力を節約しながら、IT インフラストラクチャの制御性を向上させることができます。



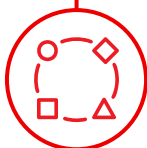
自動化をデプロイする

IT インフラストラクチャの管理に必要な労力は、その規模に応じて増加します。自動化によって、日常的なタスクを効率化し、人的ミスを減らして、スタッフをイノベーションに専念させましょう。



ソフトウェアを管理する

古いソフトウェアや署名されていないもの、精査されていないものを使用すると、ビジネスにリスクが生じる可能性があります。環境にデプロイするソフトウェア、パッケージ、およびパッチのサプライチェーンと管理に積極的に対処しましょう。



ツールを接続する

利用可能なアプリケーション・プログラミング・インタフェース (API) を介して、可能な限り多くのツールを統合しましょう。適切なインタフェースを使用して、他のツールでタスクを実行すれば、運用を効率化し、生産性を向上できます。



専門的なツールによる Linux 管理の一元化

Red Hat は、**IT 管理への包括的なアプローチ**を採用しており、物理サーバーや仮想化サーバーからプライベートクラウド・インフラストラクチャ、パブリッククラウド・インフラストラクチャ、エッジデバイスに至るまで、IT 環境全体のスピード、スケーラビリティ、安定性を向上させます。長年にわたる Linux 開発およびサポートの経験をベースとする Red Hat® 管理ツールは連携して IT 管理を効率化し、チームの時間と労力を節約して、環境をより安全で、最適化された、信頼性の高いものにします。

- ▶ ハイブリッドクラウド環境とマルチクラウド環境にわたって**一貫したソフトウェア基盤**により、プロセスが単純化され、運用効率が向上します。
- ▶ **構成可能なツールとベースライン**により、誤検知が減少し、インフラストラクチャのステータスを正確に把握できます。
- ▶ **自動化機能**により、デプロイと構成の精度が向上し、人的ミスのリスクが減少します。
- ▶ **カスタマイズ可能なビュー**は、必要に応じて適切な情報を提供します。
- ▶ **自動化されたプロアクティブな修復**によって問題を短時間で修正することができ、サポートに連絡する必要がありません。
- ▶ サポートされているハードウェアパートナー、ソフトウェアパートナー、クラウドパートナーの**包括的なカタログ**は、環境のカスタマイズ、コスト管理、ビジネスアジリティの向上に役立ちます。
- ▶ **広範なリソースのライブラリ**は、詳細で的確な情報を 24 時間 365 日提供します。
- ▶ **オンサイトおよび SaaS (Software-as-a-Service) オプション**を使用すると、好みと要件に応じてツールをデプロイできます。
- ▶ **予測分析機能**は、システムと構成を評価して複雑な運用タスクを単純化し、インフラストラクチャのセキュリティとコンプライアンスの可視化と制御を可能にします。



Red Hat Insights

プラットフォームとアプリケーションを継続的に分析

Red Hat ベースのハイブリッド環境およびマルチクラウド環境の管理と最適化を行う独自のホスト型サービススイートによる予測分析と深い専門知識を活用して、運用タスクとインフラストラクチャ・ライフサイクルを効率化します。

[Insights の詳細はこちら →](#)

Red Hat Satellite

Red Hat インフラストラクチャの管理を単純化

単一のコンソールでシステム管理を効率化し、一般的なタスクを自動化することで、物理環境、仮想化環境、クラウド環境、エッジ環境における Red Hat Enterprise Linux システムのセキュリティ、可用性、コンプライアンスを強化します。

[Satellite の詳細はこちら →](#)

Red Hat Enterprise Linux システムロール

管理と構成を自動化

一般的な管理タスクを自動化して管理を効率化し、オンサイト・インフラストラクチャ、クラウドリソース、エッジデバイス間で一貫した、反復可能な構成を実現します。

[システムロールの詳細はこちら →](#)

Red Hat Enterprise Linux Web コンソール

Web インタフェース経由でシステムを管理

ローカルやリモートの Red Hat Enterprise Linux システムの健全性およびステータスの管理と監視を行うための、使いやすい Web インタフェースを使用して複雑なタスクを実行します。

[Web コンソールの詳細はこちら →](#)

Image Builder

システムイメージを構築してデプロイ

オペレーティングシステム・イメージをカスタマイズして、インストールディスク、仮想マシン、クラウドなどを含む環境全体で一貫したプロビジョニングとデプロイを実現します。

[Image Builder の詳細はこちら →](#)

Leapp

ソフトウェア基盤をアップグレード

Red Hat Enterprise Linux のメジャーバージョン間のインプレース・システム・アップグレードを単純化し、オペレーティングシステムを再インストールすることなく新機能のメリットを活用します。

[Leapp の詳細はこちら →](#)

ユースケースに **ベストプラクティス** とツールを **導入**

Linux と IT の管理には、インフラストラクチャと運用の多くの領域が含まれます。ここでは、一般的なユースケースとベストプラクティス、重要な推奨事項、成功するためのツールをご紹介します。

カスタムイメージによるインフラストラクチャのプロビジョニング

現代のビジネス運営のニーズを満たすには、IT インフラストラクチャの効率的なプロビジョニングが不可欠です。しかし、多くの IT チームは、多数の方法やプラットフォーム固有の管理ツールを使用してシステムをプロビジョニングしているため、手順の標準化に苦労しています。統一されたプロビジョニング戦略を確立することで、ハイブリッドクラウド・インフラストラクチャ全体でオペレーティングシステム・イメージと SOE を効率的かつ一貫して定義、構築、デプロイできるようになります。

ベストプラクティスと推奨事項

効果的なプロビジョニングプロセスにより、オンサイト・インフラストラクチャ、パブリッククラウドリソース、エッジデバイスなど、ローカル環境でも地理的に分散した環境でもシステムの一貫したデプロイとスケーリングが可能になります。

- ▶ **システム定義とプロビジョニングを分離：** プラットフォームに依存しないツールを使用して、一貫したシステム運用を確保し、さまざまな環境間での互換性を強化します。

- ▶ **包括的なクロス・プラットフォーム管理ツールを導入：** 一度定義したシステムを複数の環境にデプロイできるテクノロジーを探しましょう。
- ▶ **Infrastructure as Code (IaC) 手法を適用：** バージョン管理、自動化、再現性をサポートするアプローチを使用して、インフラストラクチャ構成とプロビジョニングプロセスを定義します。
- ▶ **ロールベースのアクセス制御 (RBAC) を実装：** ユーザーの役割と責任に基づいてプロビジョニングツールとリソースへのアクセスを制御し、セキュリティとガバナンスを向上させます。
- ▶ **明確な基準を定義：** プロビジョニングの手順、構成、ベストプラクティスを確立して、組織全体での知識共有とトラブルシューティングを容易にします。
- ▶ **継続的インテグレーション/継続的デプロイメント (CI/CD) パイプラインを統合：** 自動化を使用してインフラストラクチャの変更をテスト、検証、デプロイし、IT のアジリティと信頼性を向上させます。
- ▶ **監視とアラートのメカニズムを実装：** プロビジョニング・アクティビティを追跡し、異常を検出し、プロビジョニングされたシステムとリソースの健全性とパフォーマンスを監視します。

主要な Red Hat 管理ツール

Red Hat Insights

数十年にわたって蓄積された Red Hat の技術的知識と専門知識を活用し、ハイブリッドクラウドのデプロイメントを分析してリスクを予測し、推奨されるアクションにアクセスし、コストを追跡します。

Red Hat Satellite

単一のコンソールから、オンサイト・データセンターとパブリッククラウド環境の物理マシンと仮想マシンをプロビジョニングします。インフラストラクチャを分析して評価し、既存のホストを検出してリソースの使用を最適化します。Red Hat Satellite から直接 **Red Hat Ansible® Automation Platform** を使用して、プロビジョニング後のタスクを自動化し、高速化します。

Image Builder

オンサイトツール、console.redhat.com にあるホスト型サービス、あるいはその両方を使用して、ランタイム環境全体にデプロイできる標準の最適化されたオペレーティングシステム・イメージを構築します。主要なクラウドプロバイダーや仮想化テクノロジーと互換性のあるイメージを使用して、開発からプロダクションまでのパスを効率化します。

構成の管理と更新

構成ミスがあると、パフォーマンスの低下、矛盾、標準への非準拠が生じ、ビジネス運営やセキュリティに悪影響を及ぼしかねません。ベースイメージが適切に構成されている場合でも、エンドユーザーによる変更とインストール、アドホックな修正、新しいイメージのデプロイによって、システム設定が古いものになってしまう可能性があります。注意が必要なシステムを突き止めて修復手順を決定し、アクションの優先順位を付けて完了と検証を追跡するという手順は、多くの場合、大規模な環境で手作業で実施するには複雑すぎます。システムを定期的に監視し、構成管理と修復を自動化すると、これらのプロセスが単純化されるため、システムの整合性を維持し、コンプライアンス要件を遵守し、運用効率を向上させることができます。

ベストプラクティスと推奨事項

効果的な構成管理戦略により、一貫した構成の定義、ベースラインに沿ったシステム構築、運用およびパフォーマンスの問題の特定、非準拠システムの検出、ドリフトの制御が可能になり、環境全体で信頼性の高い運用を行うことが可能になります。

- ▶ **基本構成の数を制限：** 構成の数は、管理にかかる時間と労力に直接影響します。各システムが似たものであれば、より少ない時間、労力、スタッフで管理できます。
- ▶ **構成を一元化：** 基本構成を統一された方法で変更し、新しい設定を該当するすべてのシステムに一度にロールアウトします。
- ▶ **構成とプロセスを監査：** 非効率性、脆弱性、最適化の機会を特定し、システムの効率的な運用とパフォーマンスの最大化を両立できるようにします。
- ▶ **構成の変更を自動的に監視：** システムを定期的かつ継続的に監視して、ハイブリッドクラウド環境全体の一貫性を確保します。
- ▶ **高度なテクノロジーを使用して構成の問題を分析：** 検出結果の優先順位付けと規範的な修復アクションの適用を単一のコンソールから迅速に行える管理ツールを導入します。
- ▶ **修復プロセスを自動化：** 自動化テクノロジーを使用して、古い構成、パフォーマンスが低い構成、または非準拠の構成を持つシステムを検出し、更新します。
- ▶ **構成の更新を検証：** 更新を包括的にテストして信頼性を高め、環境全体で潜在的なエラーを制限します。

主要な Red Hat 管理ツール

Red Hat Satellite

ローカル、リモートを問わずすべてのシステムで同時にホスト構成を適用、追跡、修復することで一貫性を向上します。人間が読める宣言型言語で構成を定義してホストを自動的に構成し、単一のコンソールを介して詳細な変更レポートを表示します。

Red Hat Insights

運用上のリスクを特定し、Red Hat のサポートケース、業界のベストプラクティス、テクノロジーパートナーやサービスパートナーが発見した問題に基づいた修復ガイダンスにアクセスします。パフォーマンス、可用性、セキュリティ、コンプライアンスの問題につながる可能性のある構成ドリフトを検出します。カスタマイズしたベースライン、他のシステム、過去のプロファイルとシステム構成を比較し、変更を見つけてエンドユーザーに影響が及ぶ前に関係者に通知することができます。

Red Hat Enterprise Linux システムロール

Ansible Role のコレクションを使用して、Red Hat Enterprise Linux システムの管理と構成を自動化します。一貫性のある再現可能なシステム構成により、技術的な負担を軽減します。ロールのライブラリから選択して、ネットワーキング、ストレージ、メトリクスなどの多くのオペレーティングシステム機能を構成します。

ライフサイクル全体を通じたシステム保守

IT システムの保守には、ハイブリッドクラウド・インフラストラクチャ全体にわたって信頼性、可用性、セキュリティを確保するための包括的なアプローチが必要です。脆弱性に対処し、新たな脅威からシステムを保護するには、定期的なパッチ適用が不可欠です。継続的な監視と監査のプロセスにより、セキュリティとコンプライアンスの問題を迅速に特定して修正し、データ侵害や規制違反のリスクを最小限に抑えることができます。そして、パフォーマンスとリソース使用の課題に対処することで、システムの機能を最適化し、進化するビジネスニーズに対応できます。

ベストプラクティスと推奨事項

プロアクティブな保守作業を優先し自動化することで、IT 環境の整合性とパフォーマンスが向上するとともに、潜在的なリスクが効果的に軽減されます。

- ▶ **定期的にシステムスキャンを行う：** 定期的に自動監視を実施することは、業務への影響や侵害が生じる前に、コンプライアンス上の問題やセキュリティの脆弱性を特定するのに役立ちます。
- ▶ **実用的な知見を導入：** 環境に応じた情報を提供するツールは、存在するコンプライアンスの問題とセキュリティの脆弱性、影響を受けるシステム、予想される潜在的な影響をすべて短時間で特定するのに役立ちます。
- ▶ **管理ツールによる結果をカスタマイズ：** 一部のコンプライアンスチェックは、特定の構成、用途、またはワークロードによって、特定のシステムに適用されない場合があります。誤検知を減らし、ビジネスリスクを管理し、セキュリティとコンプライアンスのステータスをより現実的に把握するためにビジネスコンテキストを定義できるテクノロジーを選択します。
- ▶ **規範的で優先順位付けされた修復を適用：** 規範的な修復手順を提供するテクノロジーを導入すると、自分でアクションを調査する必要がなくなり、時間を節約してミスリスクを軽減できます。潜在的な影響と影響を受けるシステムに基づいてアクションに優先順位を付けることで、限られたパッチ適用の機会を最大限に活用できます。
- ▶ **パッチを頻繁に適用し、パッチをテストする：** システムを最新の状態に保つことで、セキュリティ、信頼性、パフォーマンス、コンプライアンスを向上させることができます。重要な問題にすぐに対応するためには、パッチを頻繁に適用する必要があります。重大なバグや欠陥が見つかった場合はそのパッチを直ちに適用します。パッチを適用したシステムは、受け入れテストを行ってから本番環境に戻します。
- ▶ **直感的なレポートを生成して分析：** パッチが適用済みのシステム、パッチ未適用のシステム、セキュリティポリシーや規制ポリシーに準拠していないシステムに関する明確なレポートを生成するツールを探しましょう。包括的なレポートによって監査可能性が向上し、環境のステータスをより深く理解できるようになります。
- ▶ **自動化をデプロイ：** インフラストラクチャの規模が大きくなると、手動での管理は難しくなります。一般的なタスクの効率化、修復の迅速化、一貫性の向上、定期的な監視とレポート生成のために自動化を使用しましょう。
- ▶ **ツールを接続：** 分散型の環境には、プラットフォームごとに異なる管理ツールが含まれていることがよくあります。API を介してそれらのツールを統合し、好みのインタフェースを使用して他のツールのタスクを実行します。使用するインタフェースを減らして運用を効率化し、環境内の全システムのセキュリティとコンプライアンスの状態に対する可視性を向上させます。

主要な Red Hat 管理ツール

Red Hat Satellite

セキュリティの脆弱性に関するリスクを低減させ、政府の要件、業界の規制、企業標準に関するコンプライアンスを強化します。共通脆弱性識別子 (CVE) やコンプライアンスリスク、パフォーマンスの問題によりアップデートが必要なホストを自動的に特定できます。そして、システムに大規模にパッチを適用して更新し、問題を修正します。

Red Hat Insights

環境全体でパッチ適用とアップデート管理を効率化します。Red Hat 製品のアドバイザリー、利用可能なパッチ、影響を受けるホストを確認して、アップデート計画を作成できます。アップデートを受け取るホストを制御する、再利用可能なパッチテンプレートを設定できます。単一の Web コンソールから、ロケーションに関係なく、任意のホストにリモートでアップデートをデプロイできます。

Red Hat Enterprise Linux システムロール

Red Hat がサポートする自動化コンテンツによってセキュリティ管理を単純化します。SELinux、ファイアウォール、仮想プライベートネットワークなど、多くの高度な Red Hat Enterprise Linux セキュリティ機能を構成します。

Red Hat Enterprise Linux Web コンソール

単純化された Web ベースの管理ツールによって、オペレーティングシステムの多くの側面をより効率的に管理します。Linux の初心者でも、ストレージおよびユーザーの管理、ネットワーク・インターフェースとファイアウォールの構成、システム更新の実行、システムパフォーマンスの監視、ログの検査など、さまざまなタスクを実行できます。



オペレーティングシステムのアップグレード

オペレーティングシステムのアップグレードは、システムのライフサイクル管理において極めて重要な要素です。アップグレードは運用効率の維持だけでなく、テクノロジーの進歩に合わせて重要なインフラストラクチャを最新の状態に保つためにも役立ちます。インプレース・アップグレードを行うと既存のシステムに新しいバージョンを導入できるため、ユーザーとアプリケーションは新しい機能、パフォーマンスの向上、セキュリティ強化のメリットを享受できます。あるいは、アプリケーションとデータを新しいインストール（さまざまなプラットフォーム、アーキテクチャ、クラウド環境など）に移行して、より先進的なテクノロジーを導入し、IT インフラストラクチャを進化するビジネス要件に合わせることもできます。どのようなアプローチを取るにしても、混乱を最小限に抑え、スムーズな移行を確実に行うには、慎重な計画、テスト、実装が不可欠です。プロアクティブかつ戦略的なアップグレードを通じて、新しいイノベーションを活用して生産性を高め、セキュリティを強化し、変化する市場で競争力を維持することができます。

ベストプラクティスと推奨事項

オペレーティングシステムのアップグレードを成功させるには、ハイブリッドクラウド・インフラストラクチャ全体で安定性とセキュリティを継続的に確保するための効果的な計画、実行、管理が必要です。

- ▶ **詳細なアップグレード計画を作成：** 中断を最小限に抑え、スムーズな移行を確実に行うために、タイムライン、役割と責任、バックアップとロールバックの手順、コミュニケーション戦略を含む詳細なアップグレード計画を作成します。
- ▶ **徹底的な互換性評価を実施し、特定された問題を修正：** アップグレードを開始する前に包括的な互換性評価を実施して、既存のアプリケーションとハードウェアが新しいバージョンと互換性があることを確認します。また、特定された問題の修正を自動化することを検討しましょう。
- ▶ **重要なデータと構成をバックアップ：** アップグレードの前に、重要なデータ、アプリケーション、システム構成をすべてバックアップして、アップグレードプロセス中のデータの損失や破損のリスクを軽減します。
- ▶ **制御された環境でアップグレードを実行してテストを実施：** 制御された環境でアップグレードを実行し、広範なテストを実施して、互換性の問題やパフォーマンスのボトルネック、予期せぬ課題を特定して対処します。
- ▶ **段階的なロールアウト戦略を実装：** 運用への影響を最小限に抑え、トラブルシューティングを容易にするために、重要度の低いシステムや部門から始めて、バッチまたはグループ単位でシステムを徐々にアップグレードする段階的なロールアウト戦略の実装を検討しましょう。

- ▶ **ユーザーのトレーニングとサポートを提供：**組織が新しい機能やワークフローに慣れるための包括的なトレーニングとサポートを提供します。
- ▶ **アップグレード後のパフォーマンスを監視して評価：**アップグレード後のパフォーマンス指標、ユーザーからのフィードバック、システムの安定性を継続的に監視して評価し、最適化が必要な問題や領域を特定し、迅速に対処するための予防策を講じます。

主要な Red Hat 管理ツール

Leapp

元のサブスクリプション、システム構成、カスタムリポジトリ、サードパーティ・アプリケーションを保持したまま、Red Hat Enterprise Linux の次のメジャーバージョンへのインプレース・アップグレードを実行します。付属のアップグレード前分析レポートを使用して、潜在的なアップグレードの問題を特定し、可能な場合は修正を自動化します。

Red Hat Satellite

クラウドベースおよびデータセンターベースの高価なハードウェアリソースを常に最新の状態に保ち、総運用コスト (TCO) を削減します。ジョブテンプレートを使用すると、完全な再インストールを実行することなく、複数の Red Hat Enterprise Linux ホストでインプレース・アップグレードを同時に実行できます。

Red Hat Insights

接続されている Red Hat Enterprise Linux システムでアップグレード前分析タスクを実行して、潜在的な問題を特定し、アップグレードの前に修復ガイダンスを受け取ります。



成功事例を見る

英国気象庁

英国の国立気象予報機関である英国気象庁は、世界中の人々に天気や気候に関連したサービスを毎日提供しています。サーバー管理への包括的なアプローチを確立するために、英国気象庁は Red Hat Insights を導入して Red Hat Satellite の使用を補完しました。そして、Red Hat テクニカルアカウントマネージャーのサポートを受けつつ、サーバー環境の可視性を大幅に改善させました。

英国気象庁はまず、既知の問題のあるマシン数台で Insights をテストすることから始めました。問題をすぐに洗い出すことができたので、IT チームはより広範な展開を進めることを決定しました。チームは、社内の変更管理プロセスに従って Satellite を使用し、資産全体への Insights のインストールを単純化しました。

Insights により、タスクの優先順位付け、問題の有無の確認、影響を受けているシステムや問題の深刻度の把握が極めて容易になりました。また、構成の問題を特定して修正することで、サーバー資産を望ましい基準に近づけるのにも役立ちました。

英国気象庁は、今後も Insights と Satellite を利用して、環境全体を管理し、よりプロアクティブにセキュリティポスチャを改善していく予定です。

66

Red Hat Insights は、トップダウンの概要を提供し、**資産管理に対してより包括的なアプローチ**を採用するのに役立つことが分かりました。Red Hat Satellite は個々のマシンの問題を明らかにすることに長けており、Red Hat Insight は、マシンごとに問題を扱うのではなく、資産全体で共通する問題を結び付けることを強みとしています。

Chris Wilkinson 氏
英国気象庁、
シニアシステムエンジニア

成功するための管理を 始めましょう

Linux は、先進的なハイブリッドクラウド環境における重要なプラットフォームです。

包括的な管理戦略を導入すると、アセットとビジネスを保護するとともに、Linux 環境を最大限に活用することができます。Red Hat は、組織のチームがあらゆる規模の Linux 環境のパフォーマンス、信頼性、セキュリティを向上できるようにする相互運用可能な管理ツールを提供します。

成功するための管理について詳細はこちら：
redhat.com/ja/topics/management

